

新中国における標語

横 山 宏

1949年10月1日に中華人民共和国の成立が宣せられた。そのご3ヵ年あまりの経済復興段階をへて、1953年から第1次経済5ヵ年計画が開始された。1958年には第2次計画がはじまると同時に農村における人民公社化、大躍進と大きな変化が起ったが、翌年から3年間にわたり予期せざる災害が中国をおそった。1962年からは「調整」の段階に入り、各種の改革をへて1966年から第3次経済5ヵ年計画へ入っているわけである。

その間中国の変化の大きかったことはだれでも認めないわけにはいかないところである。その大きな変化のひとつひとつは社会主義への模索の道新しいあゆみであったと言うべきであろう。資本主義から過渡期をへて社会主義へたどりつき、そこから共産主義への方向を求めつつある中国のあゆむ道は有史以来のものであると言っても言いすぎではないと思う。試行錯誤という言葉があるが、これまでのあゆみも、またこれからのあゆみも新しい道を求めての一面では困難に満ちたものであり、また一面では創造のよろこびに満ちたものでもあろう。

本稿では、その苦しみながら求めつづけ、今日に至った足跡を中国において数多く出された標語・スローガンで追ってみたいと思う。時代の目まぐるしい変化により、それらの標語・スローガンはときとともに忘れ去られがちであるが、そのひとつひとつにはその時代的背景が深く刻みこまれているものばかりである。このなかには有名なものも、また地域的なものもあるが、多くのものが忘れ去られようとしており、また残っていても形骸化しかかっているものも多い。それらのものを整理し、その意味する内容を書きしるすことにした。新

中国になってからのものに限ったが、紙幅の関係でまず数字を以って示されているもの限定した。そのため、戦前の「二・七」「四・一二」などと、解放後ではあるが、「公私兼顧・労資兩利」、「多快好省」などはとりあえず除くことにした。これらは稿を別にしなければならないと思う。

排列は時代順も充分かんがえられたが、むしろ数字の順によった方が索引も不要となり、より便利であるとかんがえ、数字順とした。それぞれの数字のなかでは時代順に排した。また、使用した資料は人民日報、新華月報（1956年1月からは新華半月刊となる、1959年6月まで）紅旗、経済研究などと、日本語の人民中国、北京周報などによった。

一大二公 第一には大きく、第二には公共的であること。人民公社の組織が高級農業生産協同組合よりも完備した体制をとっており、集団経済の力、すなわち人力・物力・財力がずっと大きくなり、指導力もつよまった。こうして高級農業生産協同組合の限界がつきやぶられたため、より大きな範囲で各種の生産・建設事業を統一的に計画できるようになった。

一交 これはこのあとに「四大、一改、三結合」と一体となり用いられた。大企業が大衆運動をおこなうとき、企業側はこれまでの上から下への行政命令を定め、すべての保守的考えや落後思想をもつ傾向を防ぐ方法である。この一交はその第一段階である。すなわち方針任務、計画を正しく大衆につたえることを意味している。それから四大により大衆自身が大いにかんがえ論じあうところへつながって行く。四大以下を参照。

一改 「兩參一改三結合」のうちの一改をとりだしたものである。不合理な規定・制度を改めること。

一窮二白 中国六億の人口の顕著な特色は、第一に経済的に貧困であること、第二に文化的に空白であることである。

全国一盤棋 生産闘争や階級闘争をすすめる計画を作成し、実行にうつすときには全国的観点、六億の人口の観点から出発しなければならないことを示し

たもの。全体と部分の関係、重点的地点と一般的地点との関係、集中指導と分級管理との関係を正しく処理することを要請した。

一分爲二 一つが分れて二つになる。1964年春から公然と開始された文芸整風運動は、哲学者楊献珍の「合二而一」論の批判からはじまった。これは意識の存在と同一性を否定し、労働者、農民、兵士大衆の主体的能動性に打撃をあたえ、大躍進に反対した。言いかえれば唯物弁証法を堅持するものと、それに反対するものとの闘争であり、二つの世界観、すなわちプロレタリアートの世界観とブルジョアジーの世界観との闘争である。

两条腿走路 正しくは「用两条腿走路」。二本足であるくこと。大型の設備を作るにはそのほかの中小の工業にも充分配慮し、大衆路線をつらぬき、二本足であるかねばならない。大躍進のとき、鉄鋼の生産拡大を集中的におこなったが、近代的設備によると同時に中国式の製鉄法も採用した。この「土法」は手工業的段階のため、技術が低く品質が劣り、労働力が浪費され、コスト高であるとの批判もあったが近代的生産が目標に追いつかないときにおいては必要な補助的方法であった。「洋」法（近代的方法）のものと、その補完的な役割としての「土」法とを併用する場合に用いられる。

両参 このあとに「一改，三結合」とつながる。1957年冬から山西省陽泉市で実施された幹部（事務職員）の労働への参加と大衆の管理・経営への参加を意味する。このスローガンは全国的なものとなり、その後の下郷、下放へつながっている。この方法により経営体における幹部と労働兵大衆とが互に進歩し、生産への積極性を高めるのに大いに役立っている。→一改，三結合。

双化 機械化と自動化。1958年北京の自動車部品工場で数人の青年労働者がこの双化のための「突撃隊」をつくり技術革命についてかなりの成績をあげた。

抓両頭・帶中間 先頭と最後尾をしっかり把握して、中間をみちびく。1958年におこった大躍進当時の大衆路線を目標とした指導方針。

両深入→五有。

兩放 人員と資材を下放させる。農村における財政・商業体制の統一指導、分級管理の方針をもととし、合理的運営につとめることであり、このあとに「三統、一包」とつづく。三統とは統一的政策，統一的計画，統一的流動資金の管理ををいい，一包とは財政を一手にひきうけること。

二論 実践論と矛盾論。中国における経済建設は一時的な困難や各種の物質的・技術的困難に遭遇しているが、それらの難関を克服し、社会主義工業化のため前進するときのよりどころとされている。たとえば大慶油田を建設した人びとが企業の革命化実現のため輝かしい手本をうちたて、新しい道をきりひらいたよりどころはこの二論である。

合二而一 → 一分為二

三座大山 帝国主義，封建主義，官僚資本主義。1949年に新中国が成立するまでにこの三つの大きな障害をのりこえた。

三自運動 自治，自養，自伝。1950年プロテスタント革新の声が呉耀宗らからあがり、「中国のプロテスタントは新中国の建設にあたっていかに努力すべきか」を発表し、帝国主義の正体を認識し、中国人自身の支持する中国教会の樹立を促進するようよびかけ、この運動をはじめた。自治とは政治的な外国支配の排除，自養とは思想的に外国崇拜と超国家観念を払拭し，経済的な自立をする，自伝とは独立して伝道・布教すること。

三大運動 土地改革，反革命分子の鎮圧，抗美援朝・保家衛国。1，土地改革は1950年6月に「中華人民共和国土地改革法」が制定され，1952年末までには基本的に終了した。2，1950年の朝鮮戦争勃発により国内の反革命運動が各地におこったため，「反革命処罰条例」（1951年2月）や「反革命犯罪者の財産没収に関する規定」（1951年6月）を公布し，国民党時代の残存反革命勢力に打撃をあたえ，多くの人民大衆に警戒心を高めさせた。3，朝鮮戦争勃発の年の秋に中国人民解放軍は朝鮮援助にたちあがった。このスローガンのもとに国内では労働者の愛国主義生産競争がおこり，増産・節約運動が全国におこった。

この三大運動は解放後間もなくの経済復興期、いわゆる過渡期におこなわれた大運動であり、これをたたかい抜き勝利をおさめたのち、第1次5ヵ年計画が開始される。

三長一短 病院での受付40分、待ち時間2時間、投薬に2時間、受診時間はきわめて短いこと。1953年、北京市の各病院でおこった現象。検討の結果、手続の繁鎖（受付、受診待ち、受診、診療費の書込み、支払、投薬の六関門ある。そのほか他の科の治療をうけるにはたいへんなことになる）、制度上の欠陥（ある病院では外来患者と入院患者と同一時間に診療にすようになっていく）、人員の不適當、慢性病患者の累積などがあげられ、適切な処理をすることとした。

爛三毛 婦人労働者が子供をもっと見込がなくなり、仕事を一所懸命やらず、消極的になること。解放初期、托児所は少く、あっても設備がわるく、人員も不十分でなかなか利用できなかった時代にこのコトバが生れた。この現象をなくすため托児所が大いに改善されていった。

三快三不 電話交換手についてのやるべきこと。早く受け、早くかけ、早く切る。むだ話をしない、間違えて継がない、秘密をもらさい。

三反・五反 汚職・浪費・官僚主義に反対すること。贈賄・脱税・国家財産の窃盗・仕事の手抜きと原料のごまかし、国家経済情報のスパイに反対。1951年末から1952年上半期にかけておこなわれた大衆運動。これにより五毒を一掃しただけでなく、過渡期における中国経済の復興において労働者の指導権を確立し、ブルジョアジーの攻撃を粉砕した。

三権・四権 三権とは労働者が資本家の財産権、経営管理権、人事権を尊重すること。しかし、労働者は建議権、抗議権、監査権、控訴権をもつ。1953年、武漢市で私営企業が増産節約運動をおこなったとき、大衆を発動して労働者に階級教育をすすめた。その重点として、この三権・四権をとりあげた。

三定 食糧の生産量を定め、国家が農民から買付ける量を定め、国家から供

給を計る量を定める。食糧の政府による統一購入，統一販売工作の発展である。農村における食糧の需給を調整し，食糧問題の計画的な運営の基礎をつくりだすためのものであった。1953年の「穀物の統一買付，統一供給に関する命令」を基礎としている。

三大領主 チベットにおける封建政府，寺廟，貴族。チベットにおける封建的農奴制社会において貧しい農民・牧畜民たちはこの三大領主の圧迫と搾取をいやというほどなめさせられた。

三害 (1) 窪地で溜り永が排水できずおこる水害，大風が砂を吹きあげる害，アルカリ性の土地の害をさす。これを三大災害としている。これを防止するには治水，治砂およびアルカリ性土壌を酸性に変化させる。

(2) か，はえ，ねずみの害をいう。「除三害」という。このなくなった状態を「三滅」という。→三滅。

三滅 か，はえ，ねずみの三害をなくす運動。広州の金花街では3,000戸の窮乏した労働者がおり，三臭街（どぶ，ゴミ，尿尿のにおう町）の名が高かった。解放後は衛生観念を高め，除三害を大いにおこない，「三滅」，「六無」（ほこり，ごみ，尿尿，汚水，痰，ガラクタがない）の街に変えた。

三好 身体好，学習好，工作好をいう。毛主席のよびかけであった。

三面紅旗 総路線，大躍進，人民公社をいう。1958年，社会主義建設の政策として決定した。

三級所有制 人民公社，生産大隊，生産隊の各所有制をいう。1958年，農業生産と社会主義建設の高まりのなかで人民公社が創設された。全国で74,000あまりに達した。所有制については1959年の廬山会議の決議により三級所有制に落ち着いた。ある人民公社は規模が比較的大きく，そのしたに生産大隊と生産隊の二級の組織をもち，またある人民公社では規模が小さくそのしたにただ生産隊をもつだけのものもある。

三同 同時動工，竣工，通車（同時に起工し，同時に竣工し，同時に車が通

れるようにすること)。一部開通のようなことのないようにするためにこの三同が言われた。

三匠 鉄匠、木匠、銅匠（かじや、大工、銅細工屋）。農村において近代的な「近代化」に至るまえに、出来る範囲で近代化をやって行くためには、この三匠の協力がせせとも必要である。→四土化。

三抓→五有。

三筆賑 1. 党・政府・労働者階級は解放後農民に何をもたらしたか。2. 農民はなぜ党と政府のよびかけに応じ食糧その他の農産物を国家へ売りわたしたか。3. 農民はなぜ党と政府のよびかけに応じ相互合作に参加したか。2、3. は国家に何の利益をもたらし、農民に何の利益をもたらしたか。この三点を詳細に計算したノートのことを三筆賑という。このノートを作り、系統的に農民に具体的な思想教育をおこなうこととした。

三定一頂 時間をきめ、職場をきめ、職責をきめて幹部が労働に参加し、技術水準が高くなり、単独で仕事が出来るようになってから生産現場の一員に代ること。四川省省委員会が提唱し、全国的なものとなった。この労働制度をおしすすめるには、実践——認識——再実践——再認識の過程を経なければならない。

麥三紅為三白 三紅（さつまいも、高粱、赤がらし）を三白（米、麦、棉花）に変える。1958年、河南省原陽県では四年連続の大災害をうけているが、これを克服しようとの決意をのべたもの。

三改 耕作制度・作物品種・耕作方法の改革。安徽省における農業生産の三つの改革事項。水利事業が全面的に終了していないときには水害、旱害をさけるのに有効な方法として考えられた。

三化 (1) 生活の集団化、組織の軍事化、行動の戦闘化。人民公社化後大衆の自覚の引きあげと党に対するより一層の基礎のうえに出来たものである。これにより党は大衆をどこへでも導くことができるが、反面、責任はより大きく、

重いものとなった。指導方法、指導のやり方のよしあしは大衆の生産と生活に大きく影響する。それに対処するためには全面的、民主的を基礎とし、大衆路線をつらぬき、大衆の意志を集中させ、大衆の利益を代表することが必要である。

(2) 民兵工作の組織・政治・軍事の堅実化。1964年、中国人民解放軍総政治部が北京で民兵政治工作会議をひらき、この三点の実施について研究した。

(3) 工業化、機械化、電氣化（電化）。1958年にこの運動がさげられた。→ 四化

三三制 全耕地の三分の一に作物をうえ、三分の一に樹木をうえ、三分の一を休ませる。1958年の大躍進のとき、農村の将来はかくあるべきだとの理想を示した。

三包 包工（仕事を請負う）、包産（一定の生産を引受ける）、包投資（投資をひきうける）。人民公社に右傾的保守主義に反対することや迷信をうちやぶることなどの任務のほかに、責任制をうちたて、育てることが重要な任務とされている。この意義は公社員が生産技術をマスターしかつ急速に高め専門家になるのに有利である。

苦戦三年 人民公社化後、三年は頑張ろうというよびかけ。1. 大規模な農業の基本建設の進行、2. 農具の改革と技術革命の実行、3. 基本建設の基礎のうえに農業の技術革新をおこなう。この三つの方向により「苦戦三年」を経過するならば、農業生産に大きな変化をもたらし、根本的性質の変化をもたらすであろう。「～、改変面貌」とか、「苦戦四年」「苦戦五年」などもあらわれた。

日中関係三原則 1. 日本政府は中国を敵視しないこと。2. 「二つの中国」をつくるアメリカの陰謀に加わらないこと。3. 日中両国関係の正常化を妨げないこと。1960年8月、周恩来総理はこれにもとづいて日中貿易三原則を提起し、両国間の民間貿易を発展させることができた。すなわち、1962年11月、廖

承志、高橋達之助両氏が日中覚え書きに調印、両国の貿易の発展のために、またも新しい道をきりひらいた。

日中貿易三原則 政府間協定、民間契約、個別的な配慮。

三結合 工場では党の指導的幹部、専門技術者および労働者大衆の結合。農村では幹部・農業科学関係者・農民大衆の結合をいう。工業の場合では、技術革新、技術革命は数千万人民大衆の事業であり、この任務は大衆に依拠し、大衆を発動しなければならない。このためには三結合が最も適切な組織形態であるとしている。農村では、1963年の三大革命運動のよびかけにこたえ、多くの農業科学・技術関係者がつぎつぎに研究部門をはなれて農村におもむき、研究活動をくりひろげた。

三大差異 労働者と農民の差異、都市と農村の差異、頭脳労働と肉体労働の差異。社会主義を建設する過程で生産力を大いに発展させるとともに、この三つの大きな差を縮小しなければならない。

三大民主主義 1960年以後軍隊内で政治・経済・軍事上の民主主義を発揚する運動が進められ、軍の基礎単位に革命軍人委員会、経済委員会が設けられ、兵士代表の発言権が強化された。

三八作風 あくまで正しい政治方向、困苦欠乏にたえ質素をむねとする工作作風、弾力性をもち機動性にとむ戦略と戦術の三つの言葉と団結・緊張・厳粛・活発の八字であらわされたスローガンを守り抜こうというもの。四好中隊運動のスローガンのなかの第二はこの三八作風である。

三和一少 帝国主義、各国反動派、現代修正主義には妥協的態度をとり、各国人民の革命闘争への支援を少くすること。三自一包においてのべたような背景のもとに起った考え方。哲学者楊献珍が意識と存在の同一性を否定する理論を展開し、労働者・農民・兵士大衆の主体的能動性に打撃をあたえ、党の路線に反対した。ついて「合二而一」論をもち出し、この「三和一少」「三自一包」のきわめて反動的な政治路線に哲学的な根拠をあたえた。

三自一包 人民公社化後の1962年、国民経済が一時的に困難に遭遇したとき、党の路線に対する懐疑批判として生じた考え方。自留地をできるだけ多くのこし、自由市場を多くもうけ、個人が損益に責任を負う企業単位を多くして、農業生産を各家庭に請負わせる。

三大革命運動 階級闘争、生産闘争、科学実験。この三つの革命運動は強大な社会主義国を建設するに不可欠な運動であり、共産党員から官僚主義・修正主義・教条主義をのぞき、いつも必勝不敗の立場にたてる確実な保証であり、プロレタリアートを広範な勤労大衆と団結させる必要な保証である。

三史 家庭の歴史、工場（鉱山）の歴史、革命闘争の歴史。この三つの歴史の教育に力をいれ、階級闘争の歴史にもとづいて新しい世代を教育するものとしている。1964年末までに書かれた各種の歴史はおよそ1万篇、7,000万字に達している。→「四史」

廖・松村会談合意の三項目 1. 連絡事務所の常設と連絡員の交換。2. 新聞記者の相互交換。3. 廖・高碕覚え書にもとづく貿易。1964年4月、廖・高碕両事務所の代表が北京で会談しこの三項目の協定が達成された。

三家村グループ 「三家村ノート」（中国共産党北京市委員会機関紙「前綫」に1961年10月から1964年7月まで連載）の著者鄧拓、呉晗、廖沫沙の三人をいう。1966年のプロレタリア文化大革命のひとつの中心といっても過言ではない。これにより北京市長彭真は解任。

三高主義 高い給料，高い原稿料，高い賞金。→三名主義。

三名主義 名作家，名監督，名俳優。周揚批判においてあらわれた。かれは投降分子や裏切り者と徒党を組み，私利をはかり，文学・芸術界に君臨し，他方ではこの三名主義や三高主義をとり修正主義をあおったとされている。

四大自由 農村における労働力の雇用，信用貸付，商取引，土地の買売と貸付の自由。党内の右翼機会主義者はこの四つの自由を確保してかれらのいう「新民主主義的秩序」を強化しようと主張した。

四馬分肥 初期の経済形態の国家資本主義が発展し労働者による監督が確立するにつれ、剰余価値の搾取をさらに制限するため1953年からとられた利益分配方式。所得税、企業の積立金、労働者の福祉基金、資本家の利益の四部分。

四・五・八 1956年、農産物増産目標。12年以内に実績をもとに食糧の1畝当たり平均生産目標を地域別に北部400斤、中部500斤、南部800斤とした。その数字のアタマをとったもの。

四定 労働力の分業を定め、作業区を定め、農具や耕作用家畜の使用を定め、集団ノルマ・個人の目標ノルマを定める。1956年ごろの黒竜江省樺川県の星火集団農場の生産活動方法。

四害 ねずみ、すずめ、か、はえ。これを除く運動がはやくからすすめられている。1956年には7年間にこの人民に大きな危害を加える害虫を基本的な全滅させる運動がおこった。1958年8月には全国的にこの運動をおしすすめることを決定。なお甘粛ではこの四つのほかに南京虫、シラミ、ブヨを加えてその消滅をすすめている。

四統 統一企画、統一思想、統一安排、統一力量。党の企業に対する指導上必要な点。政治工作が経済工作に密切に結びつく必要が生まれた。

四土化 土機床化、土鉄路化、土電機化、土機械化（土は中国古来の方法。それによる工作機械化、鉄道化、電化、機械化）。山西省東南部でおこなわれた大衆的技術革新運動。土から洋へ、小から大へ、低から高へ公社を工業化するための第一歩であり、本格的な農業の機械化、電化の努力のあらわれである。これには「三匠」の協力がぜひ必要である。――三匠

四定一奨 定生産目標、定投資、定上交任務、定増産措置、超産奨励（生産の指標を定め、投資額を定め、上納の任務を定め、増産方法を定める。超過生産には報償制をとる）。河南省睢県の紅星人民公社が採用した生産責任制。公社によっては三定一奨もあり、六定一奨もあり、または「三包」の制度をとっているところもある。――三包。

四辺 辺施工，辺検査，辺評比，辺驗収（辺は「～しつづ～する」の意。施工しながら検査し，批判し比較し，テストして受取る）。この四つを平行して仕事をすすめることが必要であるとの道路修復の方法。これに関連あるものとしては保道員の「十員運動」，「五包」「五定」「十上路」などがある。→五包，五定，十上路，四献。

四献 物質，原料，工具，技術。道路を作るとき各県にこの四献運動をおこし，大衆は必要な多くの器材を提供している。道を平面にするよいとまけのタコや石を引張ったりするためにトラクターを提供し，技術者が足りないときは現地で訓練班のための学校を開設したりした。

四減 減保育員，管員理，售貨員（販売人），飼養員。河北省安国県でとられた農村における運動の一つ。

四化，組織の軍事化，行動の戦闘化，生活の集団化，管理の民主化。1958年，人民公社へ移行する大衆運動のなかで，農民にたいしてこの運動をすすめた。

四同→五有

四辺 田辺，路辺，土辺，塘辺。これらの土地を利用して蚕の生産を普遍的に発展にみちびいた四川省潼関県の例。

四大件 腕時計，自転車，蓄音器，ラシヤのズボン。1958年この四つを追求することが生活の目標であったり，また金もうけだけが生きがいであってはいけないとの例として用いられた。

四大 大鳴，大放，大字報，大弁論（大いに意見を出し，討論し，その意見・批判・合理化案などを大いに壁新聞に発表し，大いに話しあう）。1959年に創造した一種の社会主義的民主主義。

四好中隊 政治思想がよい，三八作風がよい，軍事訓練がよい，生活管理がよい。この四点を中隊単位でよくする運動で，すぐれた中隊にさざげられる称号。1960年林彪国防相は「中国革命戦争の勝利は毛沢東思想の勝利」と題する論文を発表し，そのあと人民解放軍のなかに政治思想教育を徹底させ，毛沢東

思想を最高の指示とした。

四個第一 人と武器との関係では人間を第一に、人がおこなう活動のなかでは政治活動を第一に、政治活動のなかでは思想活動を第一に、思想活動のなかでは書物の思想より生きた思想を第一にする。この萌芽は1960年10月の人民解放軍の党中央軍事委員会拡大会議で林彪が主張したもの。

四保 品質，数量，返品，ひきかえの保証。1963年商業取引面でのこの制度を実施した。このとき、ひきかえが多いほどサービスがいいという意見があった。そのためある商店では毎月40件ものひきかえがおこなわれた。その後もふえる傾向にあった。そのご人民に服務することは必要であるが、国家の利益を損う結果になるものは断わるべきだと意見が現れた。国家の利益と大衆の利益の双方を考慮する必要が支配的となり、きずがなければ返品に必ずべきだということになった。

四清 政治を清め，経済を清め，思想を清め，組織を清める。1963年5月20日、「当面の農村活動のいくつかの問題についての中国共産党中央委員会の決定（草案）」にまづ発表された。1965年1月14日「農村における社会主義教育運動のなかで提起された当面のいくつかの問題」にもあらわれる。これは全国の農村において、政治・経済・思想・組織の四つの面を整理し、土台をしっかりとさせ、基本建設をおこない、人民大衆のなかでつつこんだ階級の教育と社会主義教育をすすめる、プロレタリア思想を盛んにし、ブルジョア思想を一掃し、人民内部の矛盾、敵味方の矛盾を正しく処理するものである。また思想・文化戦線において社会主義革命を一段とくりひろげ、知識人の労働化、勤労者の知識化をだんだんと実現するよう務めることを目標にしている。ふつう「社会主義教育運動」とよばれている。1966年の「プロレタリア文化大革命」は主として都市を中心としてすすめられているが、農村ではかなりまえからおこなわれていたとかがえられる。

四旧 ふるい思想，ふるい文化，ふるい風俗，ふるい習慣。1966年，文化大

革命においてさげられた消滅されるべきもの。これにより四新（あたらしい思想、文化、風俗、習慣）の樹立が主張された。

四比 仕事にたいする気構え、風格、貢献度、政治にたいする関心度を比べる。→五献。

四化 農業の機械化、電氣化、水利化、化学化。農業の近代化は中国人民の経済建設の努力目標の一つである。1965年、この四化にもとづいて農業の近代化を計っている。

五愛 祖国、人民、労働、科学を愛し公共財産を愛護すること。共同綱領第42条に規定された中華人民共和国の国民道徳。

五種経済要素 国営経済、協同組合経済、国家資本主義経済、前資本主義経済、私的資本主義経済。新民主主義社会から社会主義社会へ移行する過渡社会において存在する各種の経済形態。

五反→三反・五反

五毒→三反・五反

五多 任務、会議、文書作成、組織、幹部兼職の多いこと。1953年、農村工作において、現実に遊離した主観主義・命令主義が生産をさまたげるこの五多現象が多くあらわれたため、各地の党委員会は大衆の要求が大衆の利益に適合する仕事が生産と結んですまなければならない。これにより末端組織の幹部および各段の指導幹部自身がつねに集団的生産労働に参加するのに有利な条件をつくりあげていった。このことは1964年にも改めて主張されている。

五項原則 主権と領土保全の相互尊長、相互不可侵、内政不干涉、平等互恵、平和共存。1954年6月、中国と印度との共同声明に記され、そのご中国と友好的な民主主義国との外交方針となっている。日本語では平和五原則という。

五保 衣、食、住、教育、葬儀を保障すること。高級生産協同組合の段階では身よりのない老人のいろいろの面倒をみる制度が確立し、人民公社へ引継がれている。都市の場合は人民政府民政部門の救済金から、人民公社の場合は公

(注) 益金から支給される。その家のことを五保戸という。この制度は老後の必配がないため農村では農民の生産にたいする積極性を著しくたかめている。

(注) 公益金とは、人民公社が年間を通じてあげた総収入のうち、必要経費、賃金部分を差引いたのちの余剰金を次年度以後の積立金として公積金と公益金にわけたものを指す。この公益金が農民の健康、福利、衛生などの費用にあてられる。

五個観点 生産、大衆、階級、勤儉、弁証法の五つの観点。広東省新会県県委員会の決定した工作指導方針。それに加うるに一個方法（大衆路線をあゆむ仕事の方法）をも採用している。

五同 同吃、同住、同労働、同学習、同娯楽。1957年末より山西省陽泉市の各工場、鉱山などではじめた制度。この実行により、指導と大衆との関係が大いに改められた。

五定 定領導人員、時間、数量、質量。→五包。

五包 田包營、營包連、連包排、排包組、組包段（連隊は大隊を責任をもって引受け、大隊は中隊を、中隊は小隊を、小隊は班をそれぞれ責任をもって引受ける。軍隊組織を借用している）。河南省新郷寺区において道路作りに县委委員会議をひらき、計画、段取りを討論、検討し、その下の行政組織の郷の拡大幹部会を召集して徹底を期し、郷は政治を第一として道路作り指揮本部を作る。そのとき、この五包を実行した。

五抓 抓計画指標、抓政治思想、抓重大施策、抓幹部管理、抓工作安排。抓はしっかりつかむこと。鞍山の新村商店支部が励行していること。党の指導はすべての工作の根本保証である。

五不操心 食、衣、小遣錢、育児、工分（賃金計算の単位）に心をわずらわさない。全国各地で、人民公社の賃金制度たる分配制度が改革されたため生産力は大きな進展をみた。このあとに、四多（仕事に対する積極性が多くなり、幹部の農作業に従事する時間が多くなり、勤労が多くなり、向上が多くなる）四少（仕事に対する消極性が少く、繁瑣な事務が少く、懶惰な者が少く、落後

者が少い),三高(政治情熱が高く,生産ムード高く,農業の質が高い),二淨(雑草なくきれいで,賃金計算にトラブルなく,心はおだやか),一有実(希望がある)がつく。

五献 3月8日(国際婦人デー),5月1日(メーデー),7月1日(中国共産党創立記念日),10月1日(国慶節)および元旦の五祝日を組織的に大衆にささげる運動。石炭工業省の整風指導グループが決定した五つの措置のうちの第3番目のもの。→四比。

五有 生産工具,試験日,労働における技術上の師匠,労働手帳,労働制度をもつこと。湖南省の五つの人民公社においては「五有・四同(同吃,同住,同起,同労働)・三抓(重点をつかみ,両端をつかんで中間を把握し,検査批判をよくきく),両深入(生産現場に深く入り,食堂に深く入る),一訪問(人民公社員を訪問し,大衆のくるしみに関心をもつ)」の一連のスローガンをかけ,生産の強化をはかった。

五害 ハエ,カ,ネズミ,スズメなどの害。湖北省委員会が人民大衆の当面する生活上くるしみ,困難をもたらす害を定めたもの。これを除くことが強調されている。→五病

五病 血吸虫病,オコリ,梅毒,ジストマ,絲虫病。湖北省委員会で当面これらの疾病の撲滅を強調した。→五害

五好 (1) 階級闘争,プロレタリア独裁,貧農下層中農に依拠すること,党の政策,党の工作を忘れてはならずこの点をよくする必要がある。この五好を実践しなければ生産も不十分なものになってしまう。「五好為目標,比学赶帮超」(五好を目標とし,くらべ,学び・おいつき・助けあい・超過達成しよう)のスローガンがある。

(2) 地方的なものであるが,1953年に山西省で用いられた。耕作うえつけの時期のよいこと・技術研究のよいこと・小麦の成育のよいこと・会議のもちかたのよいこと・幹部の態度のよいこと。

五好中隊 政治思想がよい、軍事技術がよい、作風がよい、任務の完成がよい、身体の鍛練がよい。

五好戦士 出身階級・思想・革命的情熱・能力・大衆とのつながりのよいこと。この五つの点のすぐれたものを五好戦士とする。中国人民解放軍の広州軍区のある部隊での基礎幹部の養成と抜てき面でこの基準にたより成果をあげている。

模範公社員の五条件 政治思想がよく、公共財産の愛護し、労働態度がよく、助けあって団結し紀律をよく守り、勤儉節約して家事の切り回しをよくする。1963年、江西省泰和県で農業生産に参加している48名の長征時代の紅軍と古い闘争歴をもつ幹部の子弟のうち41名が「五つの条件にかなった模範社員」に選ばれた。

政治を前面におしだす五項目 1966年1月18日北京で20日間にわたる幕を閉じた中国人民解放軍政治部主催の全国政治工作会议において林彪国防相が指示したこの政治を前面におしだす五項目を検討した。

1. 毛沢東の著作を実際と結びつけて学習し運用する面に最大の努力をほらう。同著作を全軍のすべての活動にたいする最高の指示と見なす。
2. 「四つの第一」を堅持し、とりわけ生きた思想教育に大いに力をいれる。
3. 指導的幹部は深く末端組織に入り、「四好中隊」の運動に力をいれ、確実に末端組織の活動をよくし、また確実に幹部の指導上の作風をよくする。
4. ただちにすぐれた指導員・戦闘員を大胆に抜てきし、責任ある重要部署につける。
5. 筋金いりのすぐれた技術と接近戦・夜戦の戦術をみかく。

紅五類 1966年8月、プロレタリア文化大革命のとき現われた紅衛兵の入隊資格。「労働者、農民、兵士、革命幹部、革命烈士」の子弟であること。

六抓 思想、生産、生活、分配、組織、作風をつかむ。黒竜江省尚志県長寿

人民公社の整社工作にこの六つの方法を基準とした。

七定 指導、任務、時間、設備、質、労働力、安全を定める。1958年、河南省禹県で溶鉱炉を創造したときに決めた点。大躍進のとき、全国各地で製鉄にのり出したが、各地で多くの好ましい経験・工作方法を創造し、産出記録を更新した。

七大措置 水、肥料、土、種子、密植、虫害の消滅、農具の改革。1958年、大躍進のとき、この方法によりきわめて高い収獲をあげた。→八字憲法。

八字憲法 水利の開発、合理的施肥、土地改良、作物の品種改良、合理的密植、植物の保護、農具改良、よい作物管理、毛沢東が大衆増産措置の経験を総括して提出したもの。大躍進の実践はこれによった。

八無制度 食堂、賃金支払、工具庫、図書室、クラブ、会費徴収、映画入場券販売、入浴券販売の無人化制度。黒竜江省チチハル市建華機械工場でとりいれた制度。

八字方針 調整、強化、充実、向上の八字で示された方針。1958年から1960年の自然災害、その他の困難な時期をへて、中国経済はこの八字方針の時期、すなわち、農業を基礎となし、工業を主導とするの時期に入った。この内容を言いかえると全力をあげて農業をつよめ、できるだけ早く農業生産の回復と発展をはかり、同時に縮小する必要がある工業生産と基本建設を適正に縮小し、強化する必要がある工業をつよめ、工業内部の比例関係を調整する。また、製品の種類をふやし、製品の品質をたかめ、物資を節約し、中国にまったくないか、あるいは非常に欠けている製品を大幅に増加することである。62年にはその成果がかなりみられた。

八個字 值班（輪番で当番をすること）、蹲点（幹部が工場や人民公社に一定期間入りこみ具体的問題を実践すること）、労働、学習八字をいう。県、区、公社に各級の主要な指導メンバーが直接来て、輪番に当番にあたり、また労働に参加して、学習して労働者・農民大衆と一丸となることを説いたスローガン。

のちにこの八字に民主の二字を加え、十字になった。

対外技術援助八項目 周恩来首相が1963年12月から翌年2月にかけてアフリカを訪問したときにあきらかにした。

1. 平等互惠
2. いかなる付帯条件も特権も要求しない。
3. 無利子または低利借款方式。必要な場合は返済期限を延長する。
4. 対外援助目的は被援助国を自力更生による経済自立である。
5. 建設項目は効果的投資であり、被援助国の収入を増大せしめ、資金の蓄積を可能ならしめるもの。
6. 中国政府は自国で生産できるもっとも質のよい設備・資材を提供し、かつ国際価格にもとづきその価格をきめる。
7. 技術援助の場合、その技術を十分に習得できるよう保証する。
8. 中国が派遣する専門家は、被援助国自身の専門家と同等の物質的待遇をうけるものとし、いかなる特殊の要求や待遇も許されない。

十大病虫害 螟虫、イナゴ、棉花アブラ虫など十種類の農作物の病虫害を7年間で徹底的に撲滅することを計った。農業上の害虫特全国で3,000種ともいわれている。とくに害のひどいものをあげている。

人民公社の十大優越性 高城県における大衆討議でつぎの点を総括した。

1. 社会主義所有制をより一歩強固にと、発展させることができる。
2. 工農業の生産をより一歩発展させ、工業農業併進の方針を実現できる。
3. 農業の機械化の実現を早める。
4. 大型の基本建設をすすめるのに便利。
5. 公社が大であれば社員が多く資源が豊富であるため、多種経済を発展させるのに便利。
6. 公社が大きく強力であり、かつ集中していれば、労働力を統一的に配置し、またより革命的なかつより専門知識にすぐれた社会主義を建設する積

極分子の隊伍を大量に養成できる。

7. 幹部と各種の技術人員を大量に養成するに便利。
8. 文化、交通運輸事業の発展を強力にすすめることができる。
9. 災害に対する力つよく、生産と生活水準をより早く引きあげることができる。
10. 党の公社に対する指導をより一層強めることができる。

全国製鉄の十大利点 1958年10月21日、薄一波副総理が江蘇省徐州市を視察したとき、鉄鋼業における大衆運動には十の利点があるとした。

1. 製鉄熟練省を養成できる。
2. すべての労働力を集中することができる。
3. 製鉄業の発展を促進する。
4. すべての工業を躍進させる。
5. 肉体労働と頭脳労働を給合させ、両者のあいたの差別をしだいに消滅させる。
6. 共同作業により、指導する側と指導を受ける側との関係がさらに改善され、真の平等をうちだすことができる。
7. 小を以って主とする方針が貫かれるため、大衆運動を高揚せしめる。
8. 大衆運動の基礎に技術革新を展開することができる。
9. 工業上の迷信、すなわち技師、専門家がいなくても鉄鋼を生産できるという自信をもつことができる。
10. この大衆運動から「我為人人，人人為我」（われは人びとのために，人びとはわれのために）の考えを養成することができる。

十分指標，十二分措施，二十四分干劲 1958年，江蘇省常熟県でこのスローガンを提唱した。このスローガンはいきいきしており，公社化の運動の前途の必要に適合している。計画の目標は人たちの努力目標であり，この目標を実現するには気持のこもった信頼のおける措置がなければならない。そうしてこそ，

充分なる力を発揮できるのである。1958年4月5日人民日報は社説でこのスローガンを全国各地で実施するようよびかけた。

十上路 書記，食堂，住宿（宿舎），托児所，医生（医師），電話機，廣播（放送），読報組（新聞をよむ班），宣伝隊，开会（会をひらく）。地区委員会の書記から，公社の党委員会書記は全員これらの現場分散して行き指揮しする。

→五包

十破十立

1. 自卑，迷信を排し，積極的にかんがえ，積極的におこなう。
2. 雇用の考えを排し，共産主義的労働態度をうちたてる。
3. 個人主義やセクショナリズムを排し，集団主義・全体的考えをうちたてる。
4. 三風・五気を排し，大衆路線の民主的作風と困難にもまけない素朴な思想作風をうちたてる。
5. 独断専行を排し，党の集団指導体制をうちたてる。
6. 教条主義を排し，实事求是の作風をうちたてる。
7. 右派，保守で，生産量が少く，仕事がおそく，品質が劣り，原料を浪費を排し，より多く，より早く，よりよく，より経済的になる作風をうちたてる。
8. ブルジョア的考えの残りかずに排し，共産主義的理想・共産主義的平等の考えをうちたてる。
9. 自由主義・分散主義を排し，自覚と規律をうちたてる。
10. 肉体労働を軽視し，責任回避の作風を排し，労働者階級は国家の指導階級であるという思想をうちたてる。

公共食堂の十大利点

1. 潜在労働力を掘りおこし，婦人の労働力を充分に発揮できる。
2. 計画的な食糧使用を貫徹するため，食糧の節約になる。

3. 燃料を節約できる。
4. もえかすを肥料とすることができる。
5. 失火や子供を溺死事故から守ることができる。
6. 工作の配置に便利である。
7. 思想教育を強化し、社会主義のムードを高める。
8. 食前後の時間を文盲撲滅の活動に利用できる。
9. 家事が減少したことにより年寄り、子供は余暇を副業や休閒地の耕作にあて、社員の所得を増加させることができる。
10. 以上の結果は生産の季節は早く、質はよく、生産高は多く、社員の労働は多く、工分（賃金の基本単位）は多く、とりいれ後の所得が多くなる。

幹部の労働参加の十大意義 雑誌『紅旗』1963年の第13, 14合併号の社説で幹部が集団的生産労働に参加することの利点をあげている。

1. 大衆と幹部とは親密になる。
2. 刻苦素朴な作風を発揮しうる。
3. 農村では階級意識と階級感情をつよめることができる。
4. 大衆の生産意欲をかきたてる。
5. 社会の物質的富を増加し、生産者の負担を軽減し、集団的経済と全民的経済を強化し、生産の発展を促進できる。
6. 労働の尊さを高める社会的気風を作るのに有利。
7. 若い世代へ勤労、質朴、集団を愛するという道にしたがい、健全にそだつ。
8. 基礎単位の幹部は生産状況をさらに熟知でき、生産知識もさらに豊富なものになり、その結果、生産指導も具体的になり、着実になる。
9. 生産のなかで科学実験をおこない、より革命的な、より専門知識のすぐれた幹部に鍛えあげることができる。
10. 党の政策方針を適時宣伝し、よりよく遂行し、大衆の声にいつそう耳を

かたむけ、実際状況を了解し、一步すすんで民主的生活を發展させ、仕事のなかの問題を正しく解決するのに役立つ。

十大軍事原則

1. さまに、分散し孤立した敵を攻撃し、あとで集中した強大な敵を攻撃する。
2. さきに、小都市、中都市および広大な農村を手にいれ、あとで大都市を手に入れる。
3. 敵の兵員の殲滅を主要目標とし、都市や地域の保持または奪取を主要目標としない。
4. どの戦闘でも、圧倒的に優勢な兵力を集中して、四方から敵を包囲し、一兵も逃がさないよう、極力完全殲滅をはかる。
5. 準備のない戦いはせず、自信のない戦いはしない。
6. 勇敢に戦い、犠牲をおそれず、疲労をおそれず、連続的に戦う（すなわち、短期間に、休まず、たてつづけにいくつもの戦闘をする）という作風を発揮する。
7. できるかぎり、運動戦のなかで、敵を殲滅するようにする。同時に、陣地攻撃の戦術を重視し、敵の拠点や都市を奪取する。
8. 都市の攻略の問題では、敵の守備の手薄な拠点や都市は、すべてだんことしてこれを奪取する。
9. 敵から鹵獲したすべての兵器と、捕虜にした大部分の兵員で自己を補充する。わが軍の人力・物力の供給源は主として前線にある。
10. 二つの戦役のあいまをたくみに利用して、部隊の休息と整備訓練をおこなう。休息と整備訓練の時は、できるだけ敵に息ぬぎの時間をあたえないために、一般に長すぎはならない。

十六項目 1966年8月に「プロレタリア文化大革命についての決定」が中国共産党中央委員会第11回総会で採択された。その内容が16項目あるため、この

ように略して用いられる。

1. 社会主義革命の新たな段階。
2. 主流と曲折。
3. 「敢然」ということをなによりも念頭におき思いきって大衆を立ちあがらせること。
4. 運動のなかで大衆に自分で自分を教育させること。
5. 党の階級路線を断固として実行すること。
6. 人民内部の矛盾を正しく処理すること。
7. 革命的な大衆を「反革命」ときめつける一部のものを警戒すること。
8. 幹部の問題。
9. 文化革命班，文化革命委員会，文化革命代表大会。
10. 教育改革。
11. 新聞・雑誌で名指して批判をする問題。
12. 科学者，技術者および一般要員についての政策。
13. 都市，農村の社会主義教育運動と結びつける按配の問題。
14. 革命に力をいれ，生産をうながすこと。
15. 部隊。
16. 毛沢東思想はプロレタリア文化大革命の行動の指針である。

百花齊放・百家争鳴 1956年，芸術の発展と科学の進歩をうながす方針，中国の社会主義文化の繁栄をうながす方針として，多くの人の討論への参加をよびかけた。